

博物館だより

2021年 秋号 *The Museum Letter*

葛飾区郷土と天文の博物館 | Katsushika City Museum

Contents

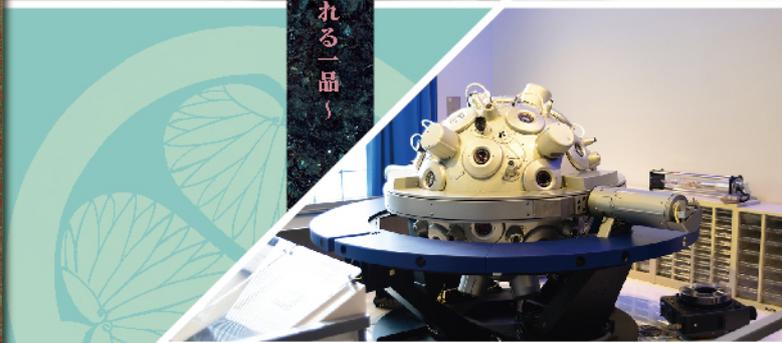
No.

130

令和3年度企画展

文化財展

「継承される一品」



開館30周年

おかげさまで
当館は今年7月に
開館30周年を迎えました。

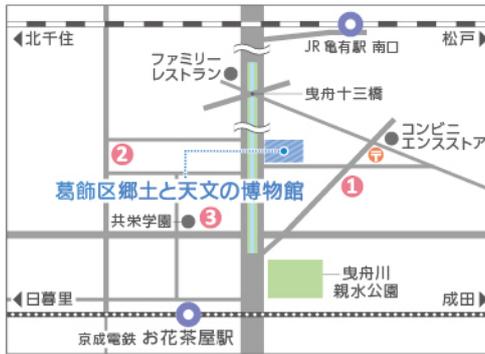


プラネタリウム 30年の歩み

！ ご来館にあたって 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、マスクの着用や入館時の検温などにご協力いただくとともに、入場制限を行う場合があります。また、感染状況により、ご利用方法などが通常と異なり事前予約が必要な場合があります。必ず事前にウェブサイトで最新情報をご覧ください。

ご利用案内・アクセス

開館時間	当面の間、午前9時～午後5時 ※詳しくはウェブサイトをご覧ください。
休館日	月曜日、第2・4火曜日 (月曜日は開館。火曜日は開館し翌日休館)
入館料	大人 100円 小・中学生 50円 幼児無料 (毎週土曜日は中学生以下無料。)
プラネタリウム観覧料	大人 350円 小・中学生 100円 幼児(座席を使う場合) 50円 (毎週土曜日は中学生以下無料。)
年間パスポート	大人 2,000円 中学生以下 700円 購入から1年間、入館料とプラネタリウム観覧料が不要になります。購入時にご希望があれば、「博物館だより」(年3回発行)を1年間お送りします。



電車	京成電鉄「お花茶屋」駅から徒歩8分 JR常磐線「亀有」駅から徒歩25分
バス	① レインボーかつしか(有71・72・74系統) 又は京成タウンバス(有70系統)で「白鳥わかば公園」バス停下車 徒歩3分 有71・72 ウェルビアかつしか～お花茶屋駅～亀有駅南口 有74 ウェルビアかつしか～亀有駅南口～新宿循環 有70 金町駅南口～亀有駅南口～ウェルビアかつしか又はタウンバス車庫 ② 京成タウンバス(有57系統)で「上千葉小学校」バス停下車 徒歩5分 ③ 京成タウンバス(有57系統)で「共栄学園」バス停下車 徒歩5分 有57 亀有駅南口～お花茶屋駅～葛飾区役所又はタウンバス車庫

〒125-0063

電話 03-3838-1101 FAX 03-5680-0849

東京都葛飾区白鳥3-25-1

WEBサイト <https://www.museum.city.katsushika.lg.jp/>



この印刷物は、印刷用の紙にリサイクルできます。

企画展「文化財展」継承される一品」では、これまでの企画展示や特別展示において公開されることが少なかった館蔵の文化財を中心に展示します。併せて平成25年(2013)より歴史資料の調査を実施している、区内最大の文化財所有者である東四つ木の浄光寺(木下川薬師)の文化財と所蔵資料についても展示を行います。

葛飾区の先人のみならず、現在も貴重な資料を守り伝え続けている区民の方との協力で実現した本展の開催は、意義ある機会であり、今回のみどころでもあります。この展示をきっかけとして文化財の魅力を届け、ひとりでも多くの方に文化財に親しんでいただきたいと思います。

I 浄光寺の文化財と江戸時代の葛飾

浄光寺の文化財

葛飾区東四つ木の浄光寺は区内有数の古刹です。江戸時代、徳川将軍家の祈願所となり、徳川吉宗の鷹狩り以来、歴代将軍がたびたび休憩所として利用しました。そのときのもてなしの様子を記した「御成記」が残されています。

また、徳川家康の肖像画「絹本着色東照大権現(徳川家康)像」を始めとする数々の徳川家ゆかりの文化財は圧巻です。

浄光寺は、江戸時代以来文人墨客が訪れる東京東郊の行楽地として知られ、明治時代には勝海舟が西郷南洲(隆盛)の碑を建立しています。

江戸時代の葛飾

また、江戸時代の葛飾区域の村の様子を伝える文化財「細谷家文書」「平野家文書」「中荏家文書」などの指定・登録文化財をひもとき、江戸時代の生活互助のありかた、農業の様子、人々が伝えてきた民俗宗教などを見ていきます。

II 文化財を伝える

文化財を修復する

現在伝えられている文化財の中には、長い年月を経てきたために一部が劣化したり元の姿がわかりにくくなっているものがあります。それらを調査し、修復して後世に伝えることも文化財を保護する上で大切な仕事です。平成30年度に登録文化財となった板絵着色産育祈願小絵馬の修復作業や、博物館で複製を作成した井戸掘絵額などを紹介します。

葛飾区の間人国宝

人間国宝とは重要無形文化財を保持する人に対する称号です。葛飾区には染色技法を保持する人間国宝がおられます。清水幸太郎氏(1897-1988)は江戸時代から伝えられてきた浴衣などの染色技法である長板中形の技術保持者として、小宮康助氏(1882-1961)は武家の礼服の袴などを発祥とする「江戸小紋」の技術保持者として、それぞれ昭和30年(1955)に重要無形文化財保持者に認定されました。このうち江戸小紋の技術は康助氏から子息の小宮康孝氏(1925-2017)へ、さらに康孝氏の子息である小宮康正氏(1956-)に受け継がれ、初めて同じ分野で三代続く、国の重要無形文化財の保持者となりました。

III 近現代の文化財

「帝釈人車鉄道関係文書」は、明治31年(1898)に金町と柴又の間に敷設された、帝釈人車鉄道に関する資料です。人車鉄道は、人が動力となって客車を動かすというユニークな鉄道で全国でもめずらしいものでした。今回はこのうち帝釈人車鉄道の開設、運営を物語る資料を展示します。

「葛飾区セルロイド工業発祥記念碑(写真パネル)」は、近現代の葛飾区の代表的な産業であるセルロイド産業にかかわる資料です。「ブリキ玩具ジープ」は、昭和21年(1946)から23年(1948)ころにかけて柴又の工場でブリキを材料に、ジープを模して作られていた玩具です。

また、近年まで区内の建造物の一部として使われていた「龍こて絵」も公開します。



a 葛飾区指定有形文化財「浄光寺近世文書36点」より「御成記」(浄光寺蔵)



b 葛飾区指定有形文化財「絹本着色東照大権現(徳川家康)像一幅」(浄光寺蔵)



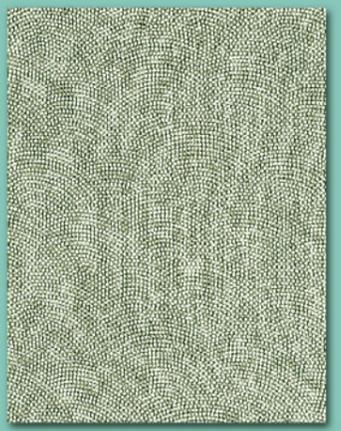
c 葛飾区登録有形民俗文化財「板絵着色産育祈願小絵馬一括」(当館蔵)



重要無形文化財保持者(人間国宝) 小宮康正氏 美しいキモノ 2011年春号 (ハート婦人画報社 伊藤千晴氏撮影)より転載



d 重要無形文化財保持者(人間国宝) 清水幸太郎氏による長板中形「垣根に菊」(当館蔵)



e 重要無形文化財保持者(人間国宝) 小宮康孝氏による江戸小紋「極紋」(当館蔵)



f 葛飾区登録有形民俗文化財「葛飾区セルロイド工業発祥記念碑」



g 葛飾区登録有形民俗文化財「ブリキ玩具ジープ」(当館蔵)



h 葛飾区登録有形文化財「龍こて絵」(当館蔵)

会期 令和3年7月22日(祝)木
▼ 10月3日(日)
会場 当館2階 特別企画展示室

展示品、会期、開催日、開館時間については、今後の諸事情により変更する場合があります。最新情報はウエブサイトでご確認ください。



浄光寺(木下川薬師)



葛飾区指定有形文化財「紙本墨画豊臣秀吉徳川家康甲冑像二幅一对」(浄光寺蔵)

プラネタリウム 30年の歩み

平成3年の開館以来、プラネタリウムの映像はスライドからビデオ、そしてデジタル映像へと進化しましたが、目指すものは変わりません。これからも生解説とオリジナル番組を通じて『宇宙を知る感動』をお届けします。

大きな変化

開館

光学式プラネタリウム

『インフィニウムβ』を導入。当時としては最新鋭のプラネタリウム。太陽系のいろいろな場所から見た星空も表現できた。7色のレーザー光線、座席のボタンなども画期的だった。



スライドやレーザーを使った映像



光学式プラネタリウム インフィニウムβ



デジタルプラネタリウム導入

デジタルプラネタリウム

『DigitalSky2』を導入。スライド映写機にかわり、さまざまな映像を映し出すデジタルプラネタリウムを導入。さらに観測可能な一番遠い宇宙までのデータをリアルタイムに映像化できる。『デジタルユニバース』を日本初導入。光学式プラネタリウムも改修し、よりリアルな星空に。



デジタルユニバースによる銀河たち



改修されたインフィニウムβ



リニューアル

光学式プラネタリウム

『インフィニウムΣ』を導入。プラネタリウム機器はもちろん、座席・ドーム・音響機器などを全てリニューアル。光学式プラネタリウムは、LED光源を使ってさらにリアルな星空に。デジタルプラネタリウムは、4Kの解像度のレーザープロジェクターによってより鮮明な映像に。



より鮮明になった映像



光学式プラネタリウム インフィニウムΣ



主な番組とイベント

オープニング演出



1991 オープニング演出



1991 『太陽・母なる星』

記念すべきオープニング番組は、私たちにとって最も身近な星『太陽』をテーマに。

1994



1994 シューメーカー・レビー第9彗星の木星衝突をプラネタリウムで見る特別イベント

1994



1994 『遙かなる世界へ』

1994



1994 『クイズ・スター&プラネット月』

1997



1997 モンゴルの皆既日食とヘール・ポップ彗星の中継

2007



2007 『かつしかから宇宙へ』

リニューアル記念番組。『デジタルユニバース』を使い、地球から遠い宇宙までの旅を体験した。

アメリカのサンティエゴのプラネタリウムが制作した番組を日本初公開。今では夏の名物番組となった「スタブラ」の第1作目。新しい試みを取り入れたところ非常に好評で、現在24作目という超長寿番組に。

TVの特別番組の会場に。

2015



2015 国際宇宙ステーションとの中継イベント



ハワイ島での共同コンサートの内容を番組化。

2009

ハワイ島のプラネタリウムとの共同コンサート

当館で開催したプラネタリウムコンサートの反響がきっかけで、ハワイ島にある「イミロア天文学センター」との共同コンサートに発展。

2018



2018 『かつしかから宇宙へ』

映像や星空、音響の進化を感じていただくために、『かつしかから宇宙へ』をリニューアルした。

2009



クラシックの名曲とデジタルプラネタリウムによる迫力の演出は、高い評価をいただき、現在第11番までシリーズ化。

開館30周年